

# 秋田の環境を考える県民の会 2025年度活動報告

## ①2025年度の研究活動により判明した汚染実態

- 1) 雄物川水系では秋田市水道水から4年連続でEUの総農薬基準(500PPT)以上のネオニコチノイド系農薬ジノテフランが検出され汚染が慢性化していることが明らかとなった。単一農薬のネオニコチノイド系農薬の最高値は、秋田市水道水(令和7年8月15日)のジノテフラン濃度2650NG/L(PPT)(2023年8月16日の3015に次いで2番目に高濃度)、次いで同地点翌日(8月16日)のジノテフラン1920NG/L(PPT)で、単一農薬100NG/L(PPT)を超えた試料は11試料で、19試料中57.9%であった。
- 2) 水道水は測定18地区のうち11地区でEUの水道水中の単一農薬基準 100 NG/Lを超え、うちジノテフラン濃度が10地点、チアメトキサム濃度が1地点であった。
- 3) 100 NG/L超えた水道水のうち原水が河川水は4試料3地点、浅井戸地下水が4試料2地点、深井戸地下水が3試料2地点で、表流水のみならず地下水を水源とする水道水中にも高濃度のネオニコチノイドが含まれている実態が明らかとなった。
- 4) モニタリング開始後100サンプル目にして、ようやく1種類もネオニコチノイド系農薬が検出されない水道水試料が確認された。その他は全ての試料から1種以上のネオニコチノイド系農薬が検出された。

## ② 広報・社会訴求部門 「講演会等」

- 10月に木村-黒田純子先生を秋田に招き、ご講演と活動報告（測定結果の速報と実態解説）を実施。200名規模。
- 12月に山室真澄先生山室先生を秋田に招き、ご講演を活動報告を実施。100名規模。運営等は秋田県立大生が担当してくれた。
- 3月に大館市の映画館・御成座にて「静かな汚染ネオニコチノイド」DVD上映会&出前授業を開催。これまで雄物川水域をメインに活動してきたため、県北での開催は初。動員数が不安だったが現地の「PFASと市民の健康を考える会」と共催したことで予想以上の動員を得た。



## ② 広報・社会訴求部門 「SNS等の広報活動、政策懇談等」

- ・ホームページを刷新

閲覧件数は上半期500、下半期(1月からは新ホームページ)併せて累計2500件。

[akikan.jimdosite.com](http://akikan.jimdosite.com)

- ・新メンバーが加わり、Instagramを新たに開設。[aki.kan2023](https://www.instagram.com/aki.kan2023)

- ・公式LINEは残念ながら登録者数が数名(講演会は高齢者が多い)。

- ・そのほか、他団体が主催するイベントや勉強会で講演活動をすることも増えた。  
例) 2025.5.31は学校給食無償化と安全な食材をめざす秋田市民の会など。

- ・2025年度は、秋田市長との面談を実現した。

- ・PFAS問題ではネオニコも絡め、地域での住民説明会や県庁での記者会見を実施。



## ② 広報・社会訴求部門 「アンケート実施、小冊子作成」

・一般家庭向けの、「水道水の水質改善対策への要望、給食でのネオニコチン系農薬の要望、米、野菜などの購入希望の有無、農業への参画への意向や可能性」に関するアンケート調査を実施。目標2000枚には遠く200枚程度の集まり具合となったため、次年度も継続。

・実態調査・学習結果を整理した小冊子の作成(1部380円で発送可能)

**あきかん通信**  
2025.4~2026.3

2022年8月、大湯村との比較で調べた秋田市の水道水。全てはそこから始まった。

いま飲んでる水は安全なものですか？

近藤 正

**2025年4〜7月の調査結果について**

- ・ネオニコチン系農薬(100ppb以下)はネオニコチン系農薬が検出された。
- ・ネオニコチン系農薬(ネオニコチン系農薬)は、河川水(水質) 調査地点(深見川)のクロアキニン 400ng/L、2017年(調査地点)のクロアキニン 220ng/Lより、第一濃度(100ng/L)を超えて検出された。
- ・ネオニコチン系農薬(クロアキニン)は、クロアキニン 100ng/L以下に検出された。
- ・ネオニコチン系農薬(クロアキニン)は、クロアキニン 100ng/L以下に検出された。
- ・ネオニコチン系農薬(クロアキニン)は、クロアキニン 100ng/L以下に検出された。

**2025年8〜11月の調査結果**

- ・ネオニコチン系農薬(100ppb以下)は、第一濃度(100ng/L)を超えて検出された。
- ・ネオニコチン系農薬(ネオニコチン系農薬)は、河川水(水質) 調査地点(深見川)のクロアキニン 400ng/L、2017年(調査地点)のクロアキニン 220ng/Lより、第一濃度(100ng/L)を超えて検出された。
- ・ネオニコチン系農薬(クロアキニン)は、クロアキニン 100ng/L以下に検出された。
- ・ネオニコチン系農薬(クロアキニン)は、クロアキニン 100ng/L以下に検出された。
- ・ネオニコチン系農薬(クロアキニン)は、クロアキニン 100ng/L以下に検出された。

秋田市の河川・水道水・ネオニコチン系農薬の調査結果  
令和7年度調査結果

### ③ 市場緑化について

男鹿市においては、耕作放棄されつつあった男鹿中地区上流部の水田において、無農薬で天日干しの栽培収穫実践に取り組み、かつての地域農業者の協力により、ネオニコフリーで化石燃料削減型の水田農業の継承にとりくみ、アグロエコロジーについての知見の蓄積を進めた。

また、学生の卒業研究としても、秋田市の中山間地の耕作放棄の実態調査や、男鹿市の休耕地の活用を開始し、地域住民の協力も得つつ連携とつながりを作り、地域のオーガニック化、農地の保全と農業の維持振興の足がかりを固め始めることができた。

秋田市、にかほ市、男鹿市では調査地区を設定し地区内の圃場単位の荒れ具合やその理由について調査した。学生の卒論としても取り組み、この間の成果をもとに25年12月には佐渡市農業委員会主催の農家向け学習会に報告し、地方の耕作放棄の構造とその克服を有機農業で行う必要性について、佐渡農業関連者と懇談した。

